

令和7年度

事業報告

法人本部

障害者自立支援施設くるみ

- 自立訓練（生活訓練）
- 就労移行支援
- 就労継続支援 B 型
- 就労定着支援

地域生活支援センターぽぽろ

- 地域活動支援センター（I 型）
- 精神障がい者地域生活支援事業
- 市町村相談支援事業
- 指定一般相談支援事業
- 指定特定相談支援事業
- 地域生活支援拠点事業

外部サービス利用型共同生活援助どんぐり

社会福祉法人 くるみ会 令和7年度事業報告

目 次

	頁
I. 社会福祉法人くるみ会	1
II. 法人本部	3
III. 障害者自立支援施設くるみ	5
IV. 地域生活支援センターぽぽろ	8
V. 外部サービス利用型共同生活援助どんぐり	13

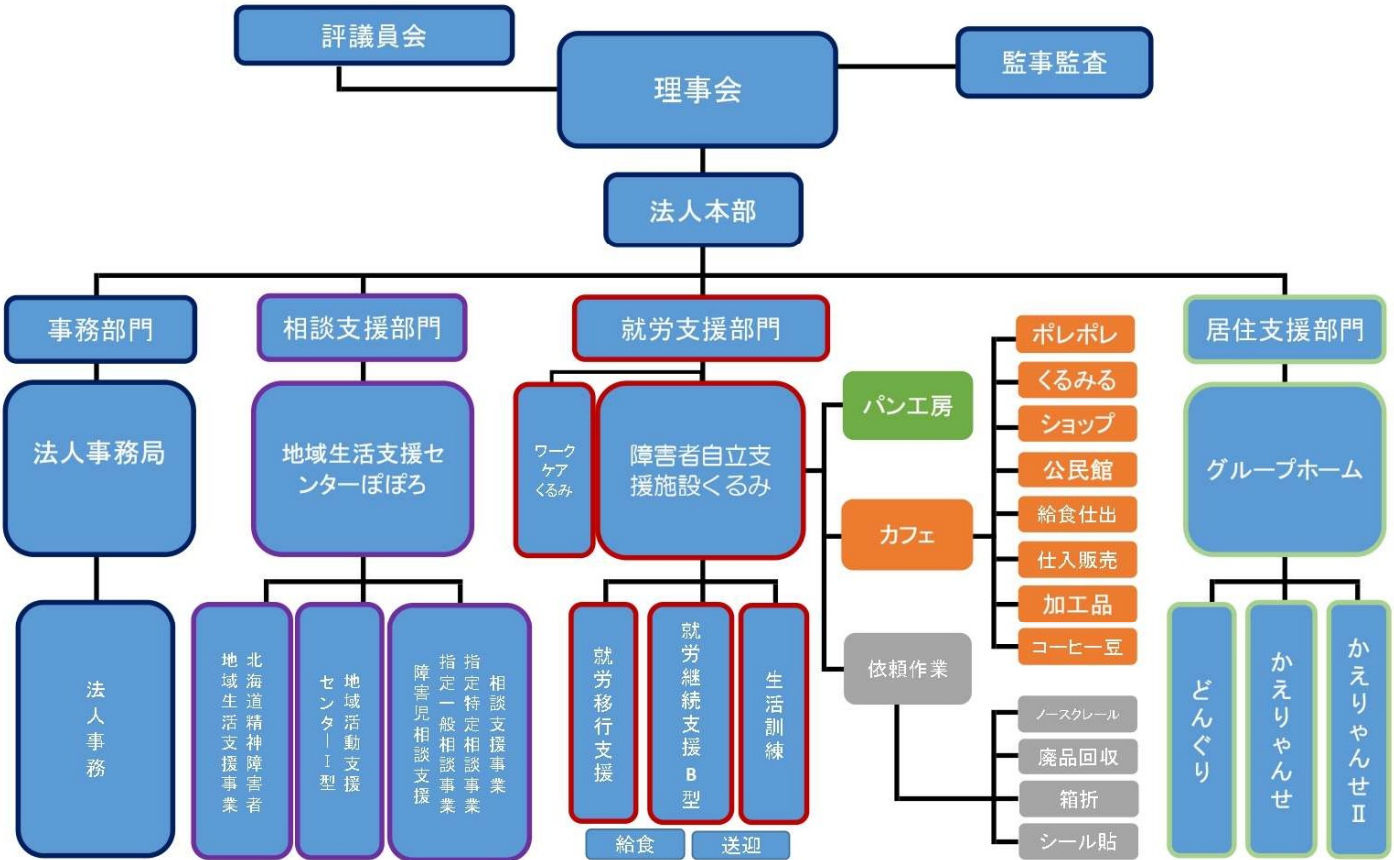
I. 社会福祉法人 くるみ会

1. 法人理念： 「笑顔の創出」

2. 運営施設

施設名	運営事業
障害者自立支援施設くるみ	生活訓練、就労移行支援、就労継続支援B型、就労定着支援（ワークケアくるみ）
地域生活支援センターぽぽろ	特定相談支援事業、障害児相談支援事業、一般相談支援事業（地域移行・地域定着） 市町村委託事業：地域活動支援センターⅠ型、市町村相談支援、地域生活支援拠点 北海道委託事業：精神障がい者地域生活支援事業
グループホームどんぐり	外部サービス利用型 共同生活援助事業

社会福祉法人くるみ会組織体系



令和7年度をふりかえって

大阪・関西万博で幕を開けた令和7年度でした。女性初の高市早苗首相が誕生し話題に事欠かない国内状況。一方国外では、イスラエルのイラン攻撃、トランプ大統領による関税政策など、遠くで起きている出来事が深く私たちの暮らしにつながっている実態が際立つ一年でもありました。

物価高、インフレ傾向は様々な事業に影響を与えています。くるみ会もその波及を受け苦慮する場面もありますが、一つ一つの問題に丁寧に向き合い、対話を通して知恵を絞り合い対処してまいりました。

障害者自立支援施設くるみでは、職員間の情報共有により、利用者のニーズに合った丁寧な支援を心掛けています。利用者が笑顔で活動する輪が広がり、通所人数も前年度を上回る結果となりました。就労意欲の向上や社会復帰に向けた支援を充実させることができ、今年度も良好な成果を出すことができました。

地域生活支援センターぼぼろでは、職員全員が福祉専門の国家資格を有し、生きづらさを抱えている人たちの相談支援事業所として質の高い業務を展開しています。

誰もが安心して生活できる地域福祉構築の一翼を担っていきたい。その思いを職員間で共有し、不安定な時代だからこそその支援の充実に務めてまいりたいと決意を新たにしています。

理事長 茅野輝美

Ⅱ. 法人本部

1. 評議員会

開催日	参加人数	議 題
R7年4月25日	決議の省略	第1号議案 欠員監事選任の件
R7年6月13日	12人	第1号議案 令和6年度事業報告並びに決算承認の件 第2号議案 役員の任期満了に伴う理事・監事選任の件 報告事項 社会福祉法人くるみ会の税務調査の件ほか

2. 理事会

開催日	参加人数	議 題
R7年5月9日	6人	第1号議案 社会福祉法人くるみ会の税務調査結果について
R7年5月26日	6人	第1号議案 令和6年度事業報告並びに決算承認の件 第2号議案 6月度定時評議員会招集の件 報告事項 理事長及び業務執行理事の職務執行状況の報告
R7年6月13日	6人	第1号議案 任期満了における理事長選任の件 第2号議案 任期満了における業務執行理事選任の件 第3号議案 任期満了における評議員選任・解任委員会委員選任の件
R7年7月28日	報告の省略	報告事項 令和7年度 第1四半期事業決算報告
R7年10月30日	6人	第1号議案 就労選択支援事業の開設について 報告事項 令和7年度 上半期中間決算報告及び監査報告 報告事項 理事長及び業務執行理事の職務執行状況の報告
R8年1月26日	6人	第1号議案 令和7年度 第3四半期事業報告及び決算承認の件 第2号議案 職員の3月期末手当（決算手当）割増支給の件 報告事項 理事長及び業務執行理事の職務執行状況の報告
R8年3月26日	6人	第1号議案 令和8年度事業計画（案）及び事業予算（案）承認の件 第2号議案 令和7年度積立金計上の件 第3号議案 令和8年度職員給与ベースアップの件 報告事項 理事長及び業務執行理事の職務執行状況の報告

3. 監事による監査

開催日	参加人数	議 題
R7年5月22日	2人	令和6年度決算監査
R7年7月16日	2人	令和7年度第一四半期決算監査
R7年10月23日	2人	令和7年度上半期決算監査
R8年1月20日	2人	令和7年度第三四半期決算監査

4. 職員及び役員参加研修

日付	研修名	参加人数
R7年 4月14日	就労支援セミナー 接遇研修	職員 16名 利用者 36名
5月14日～10月22日	相談支援従事者研修「初任者研修」	ぼぼろ 1名
5月27日～28日	行政課題研修「精神保健福祉基礎研修～法制度と相談支援」(オンライン)	ぼぼろ 2名
6月19日	接遇・マナー基礎研修(オンライン)	くるみ 1名
6月19日	障害支援区分認定調査員研修	ぼぼろ 1名
7月18日～9月12日	障害者の就労支援に関する基礎的研修	くるみ 1名
7月31日	第1回自殺対策企画評価ワーキング	ぼぼろ 1名
8月20日	砂川地域療育推進協議会第2回研修会	ぼぼろ 2名
8月28日	空知圏域雇用支援地域合同会議就労支援セミナー	くるみ 2名 ぼぼろ 2名
9月20日～22日	北海道障害者ピアサポーター養成事業 基礎研修	ぼぼろ 1名 利用者 1名
9月25日	中空知圏域精神障害者地域移行研修会	くるみ 1名
10月3日	就労支援セミナー「アサーションについて」(オンライン)	くるみ 1名
10月21日	空知圏域障害者雇用支援 就労支援セミナー	くるみ 2名 ぼぼろ 1名
11月4日	自殺対策関係者学習会	ぼぼろ 2名
11月19日	障害者就労支援に関する基礎的研修 (フォローアップ研修)	くるみ 1名
12月6日～7日	北海道障害者ピアサポーター養成事業 専修研修	ぼぼろ 1名 利用者 1名
12月11日	就労選択支援事業に係る研修会(オンライン)	くるみ全スタッフ
12月17日	権利擁護支援を考える勉強会	くるみ 2名
12月19日	精神保健福祉学習会	ぼぼろ 2名
12月25日	就労選択支援事業に係る研修会(オンライン)	ぼぼろ全スタッフ
R8年 1月14日	働き方改革関連法に関する説明会(オンライン)	くるみ 1名
1月20日	就労支援セミナー「アセスメントセミナー」 (オンライン)	くるみ 1名
2月10日	中空知圏域精神障害者地域移行研修会	くるみ 1名
2月11日	精神保健福祉士協会実習指導者フォローアップ研修会	ぼぼろ 1名
2月13日	相談支援体制の整備等に係る研修(オンライン)	ぼぼろ 3名
2月14日～15日	北海道障害者ピアサポーター養成事業フォローアップ研修	ぼぼろ 1名 利用者 1名
2月1日～2月16日	北海道サービス管理責任者基礎研修	ぼぼろ 1名
3月4日	第2回自殺対策企画評価ワーキング	ぼぼろ 2名

Ⅲ. 障害者自立支援施設くるみ（多機能型訓練施設）

1. 実施事業

事業種別	定員	事業目的
生活訓練	6名	利用者が充実した社会生活を営めるようニーズを把握し必要な支援訓練を行う。 障がいの特性や適性に配慮した生産活動を実施することで、利用者の社会参加を高める。
就労移行支援	6名	施設内での生産活動や施設外就労、企業での実習を通して就労に必要な知識・能力を養い、一般企業への就労に繋げる。またその企業で定着していくことを目的に訓練指導を行う。公共職業安定所での求職登録など、就職活動の支援を行う。
就労定着支援 （ワークケアくるみ）		一般就労へ移行した障がい者について、就労に伴う生活面の課題を改善するために、就労先への訪問や本人による来所等により必要な連絡調整・助言等を行い、就労の継続のための支援を行う。
就労継続支援 B 型	28名	一般企業などへの雇用が困難な利用者に対し、就労や生産活動の機会を提供し、日々の活動を通して社会の一員として充実した日常生活を営むことが出来るよう、自立に向けた支援を行う。

2. 職員

職種	人数		職種	人数	
管理者	常勤	1名	目標工賃達成指導員	常勤	1名
サービス管理責任者	常勤	1名	就労定着支援員	常勤	1名（兼）
就労支援員	常勤	1名	給食調理員	非常勤	1名
生活支援員	常勤	3名	給食調理員	非常勤	1名（兼）
	非常勤	1名	送迎職員	非常勤	1名
職業指導員	常勤	4名	送迎職員	非常勤	1名（兼）
	非常勤	4名			

3. 行事

日付	行事名	場所	参加者数
R7年5月9日	春のウォーキング	上砂川パンケの湯周辺	9名
5月17日	お花見	くるみ（多目的室）	33名
8月9日	砂川市盆踊り大会	砂川オアシスパーク（遊水地）	6名
8月31日～9月1日	一泊研修旅行	旭山動物園・層雲峡観光ホテル	23名
10月17日	秋のウォーキング	上砂川パンケの湯周辺	6名
10月18日	ワイワイ祭り	くるみ・つむぎ・つばさ	35名
11月9日	第3回希望まつり	砂川市地域交流センターゆう	9名

12月26日	クリスマス会	くるみ（多目的室）	46名
R8年1月24日	ボッチャ交流会	くるみ（多目的室）	23名
2月20日	冬のウォーキング	上砂川パンケの湯周辺	5名
3月8日	ボーリング大会	オリエンタルボウル	18名

4. 実績

事業種別	定員	稼働日数	実人数	延人数	利用率	実人数前年差	延人数前年差
生活訓練	6人	269日	12人	1,302人	81%	+3人	+47人
就労移行支援	6人	269日	10人	1,024人	63%	+5人	+518人
就労定着支援	—	—	6人	36人		+3人	±0人
就労継続支援B型	28人	269日	49人	8,510人	113%	-1人	+11人

事業種別	利用者（前年度）	実績（前年度）・効果・課題
生活訓練	実人数：12（9） 延人数：1,302 （1,255）	<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援実施計画策定により利用者の支援をより一層充実させ、満足度向上を得る事ができた。 ・利用者に新しい作業へ参加する意欲や利用者同士で協力して仕事に取り組む姿勢が身につくよう訓練を行った。 ・長期間通所出来ない利用者へ、電話による安否確認や体調確認、通所の促しを行い、通所率の向上、利用者満足度の向上が図られた。 ・提供している作業メニュー減少により、物足りなさを感じる利用者が散見された。
就労移行支援	実人数：10（5） 延人数：1,024 （506）	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関と連絡会議等に参加し情報提供を行った。 ・求職を目指す利用者に対して、ハローワークに同行し求職活動を行った。 ・障害者職業センターと連携し、3名の職業評価を受けた。 ・利用者の職場実習受入れ先を1件新規開拓し実施できた。 ・利用者の要望に沿った実習先の開拓や確保が課題。 ・空知管内における障がい者卒雇用の求人が少ない。
就労定着支援	実人数：6（3） 延人数：36（36）	<ul style="list-style-type: none"> ・生活面や就労先での課題の確認や改善方法などの相談対応を行った。 ・就労に伴い発生する生活面の課題である生活リズムの確立をはかるよう支援し就労定着に結び付けた。 ・就労定着支援レポートを毎月作成し本人と事業所に提出することで支援の統一化を図った ・事業所訪問を月1回以上行い事業主等から本人の勤務状況の確認を行った ・事業所からの要望に対して、提案や助言を行った。 ・定着支援を利用して頂けるようサービスの質の向上を図る。

		<ul style="list-style-type: none"> ・地域や事業主へサービス内容の周知と理解。 ・支援内容を本人と関係者で共有し支援効果を高める。
就労継続支援B型	実人数：49（50） 延人数：8,510 （8,499）	パン売上：29,651,625円（29,221,864円） カフェ売上：10,856,093円（11,959,434円） 依頼作業売上：3,258,332円（2,907,692円） 合計 43,766,050円（44,088,990円） <ul style="list-style-type: none"> ・利用者数の適性を考慮し作業配置を変更することで利用人数の増加及び稼働率を上げることができた。 ・作業を通し、協調性や思いやりの心を持てるよう対人関係の作り方を学ぶことができています。 ・パン事業及び菓子事業では新商品の開発、販売先の新規開拓により定期的、継続的な受注ができています。 ・依頼作業では新規に1件、依頼作業を受け売上げが向上した。 ・カフェ事業では公民館のカフェを撤退した。 ・病気や年齢による対応力の低下により、作業についていけない利用者が増えている。 ・多様化する障がい特性に合った作業が求められる。 ・利用者の工賃向上のため収益性の高い事業の導入が課題。 ・カフェ事業に適応できる利用者を育成できるよう支援する。

IV. 地域生活支援センターぽぽろ

1. 実施事業

事業種別	概要	事業目的
地域活動支援センター I型	市町委託 4市5町	<p>病気や障がいを抱えながら地域で生活している人に日中活動の場を提供する。 また、地域住民等に障がいの理解を深める普及啓発活動を行なう。</p>
精神障がい者 地域生活支援事業	北海道委託 中空知圏域	<p>(1)精神障がい者が暮らしやすい地域づくりの推進。 (2)精神障がい者が安心、安全に暮らせる支援ネットワーク体制の構築。 (3)長期入院者の地域移行・地域定着を支援。 (4)ピアサポーターの育成。</p>
市町村相談支援事業	市町委託 4市4町	中空知圏域在住の障がい者（身体、知的、精神、難病、発達障がい等）及び家族などからの心身の悩みを抱えている人達の相談に応じ、課題解決を目指す。
地域生活支援拠点コーディネーター事業	市町委託 3市4町	地域で生活する障がい者の緊急時の対応や、親亡き後の生活や障がいの重度化・高齢化を見据え、地域全体で障がい者の支援体制の構築を目指す。
指定一般相談支援事業		施設入所や入院中で地域移行が可能な障がい者について、入院・入所中から継続して支援を行い本人の希望する在宅生活を推進する。
指定特定相談支援事業 指定障害児相談支援事業		障がい福祉サービスを利用している人の包括的な支援計画を作成する。作成した支援計画が利用者の状況に合っているか定期的にモニタリングを実施し、必要に応じて支援計画の見直しを行う。

2. 職員

職 種	人 数		職 種	人 数	
センター長	非常勤兼務	1名			
保健師	非常勤	1名			
相談支援専門員	常勤	3名			
看護師（准看）	非常勤	4名			

3. 実績

○地域活動支援センター事業（I型）（4市5町委託）

（1）利用者

利用実績		各市町の利用者状況（延人数）					
項目	人数	市町	人数	割合（%）	市町	人数	割合（%）
実人数	78人	砂川市	1,349	41.5	滝川市	324	10.0
延べ人数	3,249人	上砂川町	233	7.2	歌志内市	86	2.6
開所日数	243日	奈井江町	588	18.1	赤平市	452	13.9
1日平均利用者数	14人	浦臼町	1	0.0	新十津川町	198	6.1
		雨竜町	18	0.6			

（2）実施内容・評価・課題

目的	実施内容	評価	課題
コミュニケーション能力を高める	・ミーティング ・語ろう会 ・サテライトミーティング	自分のことを語る、意見を伝える、他者の話を聴くなどを通して、コミュニケーションの楽しさを感じた	① JR、バスの便数の減少により、砂川周辺地域では通所が不便になっている。他地域でのサテライト開催等の検討が必要である ② 参加者の高齢化がすすみ、事故予防のため手すり等の設置などが必要である ③ 疾病や障がいの多様化により、個室対応等の環境整備が大切である ④ 物価の高騰や利用者の増加に伴い活動費用が増加している ⑤ 地域活動支援センターの認知度が低く活用できない人がいる。SNS等の活用も検討したい
社会性と自主性を養う	・季節の行事 ・創作活動 ・ランチタイム ・お菓子づくり	プログラムの企画運営等を通して、自主性を高め、仲間づくりにつながった	
自分の病気や障がいの認識を深める	・当事者研究 ・疾病別当事者交流会（統合失調症、うつ、双極性障害）	病気や障がいについて安心して話せる場であり、利用者同士のコミュニケーションを通して、自分の病気や障がいについて理解を深めることができた	
健康を増進する	・歩こう会 ・モルック ・ラジオ体操 ・健康講座	日課のラジオ体操やモルック等を実施した。参加者の体力向上につながった	
障がい理解の普及啓発をすすめる	・ぼぼろ縁日の開催 ・広報誌「かわら版」を作成	公共施設に広報誌「かわら版」を配布し、活動内容の周知を行った ぼぼろ縁日で、近隣住民の参加もあり活動を周知することができた	

○精神障がい者地域生活支援事業（中空知圏域）

実施内容・課題

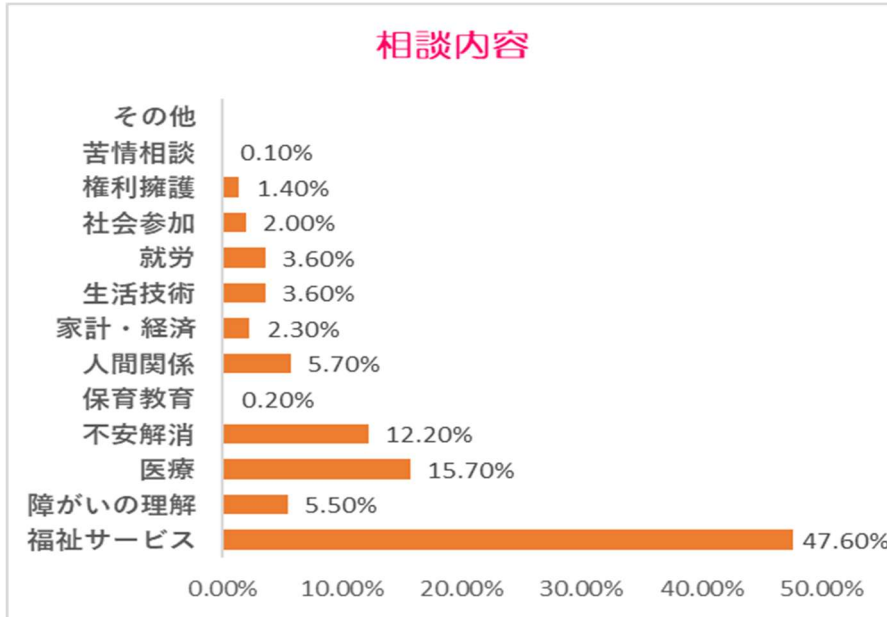
実施内容	開催日	内 容	参加人数	課題
精神障害者地域生活移行支援協議会の開催	R7年 5月23日	グループワーク 令和7年度協議会活動の検討	25人	① 各病院の診療体制等もあり、地域移行、定着事業の対象者が少ない。関係者への周知が難しい ② 活動や研修会等が多様化しピアサポーターの負担が大きくなった
	9月25日	事例検討会 ① 1日の大半をトイレで過ごす方の生活改善について ② 尿臭のひどい人の排泄支援をどう進めるか	21人	
	R8年 2月10日	課題検討・グループ討議 ① 中空知圏域における保健福祉の課題 ② グループ討議	20人	
ピアサポーターの育成	ピアサポーター委嘱：7人 ・定例ピア研修（月2回） 活動の振り返り、企画などを行なった ・全道ピアサポーター研修や全道ピア会議（オンライン）で他圏域との交流や情報交換ができた ・「となりのぼぼろ」砂川市立病院、滝川市立病院作業療法室で交流会を実施 ・ピアサポーター養成講座を受講 1名			
精神科医療機関・関係機関との連携	① 退院支援のカンファレンス等への参加 ② センター長会議（オンライン）に参加し、各圏域の担当者と近況報告や情報共有を行った			

○市町村障害者相談支援事業（4市4町委託）

（1）実績

利 用 実 績		各市町の利用者状況（延人数）					
項 目	人 数	市 町	人 数	割合（%）	市 町	人 数	割合（%）
実人数	212人	砂川市	945	57.2	滝川市	187	11.3
相談延べ件数	1,652件	上砂川町	113	6.8	歌志内市	104	6.3
		奈井江町	153	9.3	赤平市	93	5.6
		浦臼町	48	2.9	雨竜町	9	0.6

(2) 相談支援内容



(3) 課題

- ① 相談機関が分からない人も多く、当相談センターの広報が必要である
- ② 交通手段が限定される地域には、そこに合った相談日の設定を各市町と検討する
- ③ 多様化する相談内容に対応するため関係機関と連携を深める
- ④ 複雑多岐に渡る相談内容に対応するため、知識の習得が大切である

○地域生活支援拠点事業（3市4町委託）

実績・特徴・課題

利用実績		特徴	課題
相談延件数	748人	①家族の急変に伴い居住先の確保と日常生活の安定を図った 8050 問題に早期に対応するため、介護保険、医療関係者等とも検討を進めている ②疾病や障害のため、対人関係の構築やコミュニケーションが取りづらく、頻回の電話や来所、訪問支援をする人が多かった ③日常生活が破綻し、ごみの処理ができないために福祉サービスを活用できない場合がありごみ処理に時間を要した ④障害者虐待を疑われる人が多く、家族調整や関係機関連携が必要だったが、虐待に関する対応は市町村で異なることもあり、今後検討が必要だと考える	①地域全体が高齢化してきており、障害や疾病を持つ人に対する支援は増加傾向にある ②支援が必要な人をできるだけ早期に見つけ、手立てを考える地域づくりが必要である
砂川市	501人		
赤平市	43人		
歌志内市	59人		
奈井江町	59人		
上砂川町	67人		
浦臼町	16人		
雨竜町	3人		

○指定一般相談支援事業

実績	課題
対象者なく利用実績なし	地域移行支援・地域定着支援の利用を促すため、関係機関や対象者へ、事業内容の十分な周知が必要である

○指定特定相談支援事業

実績・特徴・課題

利用実績		特徴	課題
計画作成 (延件数)	240件	<ul style="list-style-type: none"> 新規利用希望者が減少している 他地域へ転出、介護保険への移行等による修了者が多かった 	① 相談者の高齢化に伴い、介護保険等の連携が必要になっている ② 相談内容の複雑化に伴い各関係機関との連携が重要になる
モニタリング (延件数)	522件	<ul style="list-style-type: none"> 相談支援専門体制が整備され、計画策定やモニタリングを適正な時期に実施できる 	

○その他の事業及び主な取り組み

事業名	事業実績		
地域自立支援協議会への参画	依頼市町：砂川市、奈井江町		
障がい支援区分認定調査	実施件数	依頼市町	
	34件	札幌市、帯広市、増毛町、江別市、岩見沢市、滝川市、弟子屈町、標茶町、別海町、新ひだか町	
普及啓発事業	事業実績	内容	課題
	広報誌かわら版の発行	発行回数：年1回 送付先：中空知圏域の市町村・精神科病院・障がい福祉サービス事業所等	① 自治体や医療機関などでは担当者が変わるとセンターの活動が十分引き継がれないため、連携がとりづらくなる。より機能的な周知が必要である。 ② 広報誌を活用し、当センターの活動や当事者の声を関係者や地域住民に届け、障がい理解を深める活動が大切である。
	パンフレット・ポスターの配布	中空知圏域の市町、精神科病院に各事業を紹介するパンフレットを配布	
	インターネットの活用	当法人のホームページに、センター概要、地域活動支援センターのプログラム、かわら版を掲載している	
理解促進・啓発事業(砂川市委託事業)	保健福祉フォーラムの開催 (R7年10月31日) 参加者：117名		

V. 外部サービス利用型共同生活援助

1. 事業目的

住居を提供し、自立に向けた援助・支援を行うことで、障害者の地域生活を推進する。

2. 施設

施設	定員	住所
どんぐり	6人	砂川市西4条北4丁目 1-19
かえりゃんせ	6人	砂川市吉野1条南8丁目 1-2
かえりゃんせⅡ	6人	砂川市吉野1条南8丁目 1-3

3. 職員

職種	人数		職種	人数	
管理者	常勤	1人	生活支援員	常勤兼務	1人
サービス管理責任者	常勤	1人	世話人	非常勤	6人
看護師	非常勤	1人			

4. 実績

利用実績（前年度）		活動実績	評価課題
実人数	18人	<ul style="list-style-type: none"> 世話人による食事の提供と生活上の支援。 サービス管理責任者等による相談対応。 共有スペースの清掃やゴミ出しなど簡単な家事を分担することで、利用者の生活技能の向上を促す。 週1回のミーティングで利用者の状況確認と看護師による健康チェック。 全職員による個別支援検討会議の開催。 	<ul style="list-style-type: none"> かえりゃんせⅡ（男性限定）に欠員があるが、入居希望者が女性のため欠員解消につなげられない。 かえりゃんせ、かえりゃんせⅡにおける暖房設備の更新が課題。
年間述べ人数	6,017人 (5,860人)		
1日の平均利用者数	16.5人 (16.0人)		
地域連携推進会議の設置		<ul style="list-style-type: none"> 設置日：令和8年3月1日 推進員：5人（任期2年） 会議開催：令和8年3月18日（全員参加） 会議内容：グループホームの概要説明の後、参加者全員で3か所のグループホームの見学を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 会議では活発な質疑が行われ、グループホームの見学会では、興味深げに質問する様子が見られた。